

科目名	服飾文化	学年	3年	使用教材	【教科書】服飾文化 文部科学省
		必修・ <b>選必</b>			【副教材】
		単位数	3単位		

学習目標

服飾の変遷と和文化，着装などに関する知識と技術を習得させ，服飾文化の伝承と創造に寄与する能力と態度を育てる。

学習方法

- 歴史や芸術、建築美術と服食文化の関連性を捉え、実践的・体験的な学習活動を通して、服飾文化に関する分野を総合的にとらえていくことに努める。
- 実際の生活に生かせるよう、服飾文化で学んだ知識を伝承し、創造的に活用する工夫をし、実践できるようにする。
- 実際に反物や生地で服飾文化で学んだ知識を生かし製作をおこなう。

学習評価

○次の4つ観点に基づき、学習内容のまとめりごとに評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。

①関心・意欲・態度	日本と西洋の服飾文化について、歴史的・伝統的な服装様式や時代による流行について関心を持ち、新たな服飾文化の創造に意欲的な態度で取り組んでいる。
②思考・判断	日本と西洋の歴史の変遷や、その国の民族・宗教・気候風土による特徴を捉え、服飾文化との関わりについて考え、判断することができる。
③技能・表現	日本の服飾の変遷と暮らしの背景を踏まえ、服飾文化を伝承のきっかけとなるような衣装を製作する。
④知識・理解	日本と西洋の衣生活について、歴史的民族的背景や各時代におけるスタイルの特長等、総合的に理解し、身に着ける。

○学習の過程で自己評価を実施しますので、自らの学習状況をチェックし、目標達成に努めましょう。

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動【評価方法】
1 学 期	1、オリエンテーション  2、西洋の服飾の移り変わり <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 西洋の服飾の移り変わりの概要</li> <li>・ 和服の服飾の移り変わりの概要</li> <li>・ それぞれ継承したい服の製作</li> </ul>	服飾文化の目的をよく理解し、知識や技術を身につける。  西洋各国の歴史・宗教・美術史と和服飾文化のかかわりについて理解する。  時代の変遷に伴う服装の特徴について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書</li> <li>・ ワークシート</li> <li>・ 視聴覚教材</li> <li>・ インターネット資料</li> <li>・ 演習</li> </ul> <b>【授業態度】</b> <b>【宿題・提出物】</b> <b>【自己評価】</b>
2 学 期	3、着ることと装うこと <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 着装の基本</li> <li>・ 洋服の種類と着装</li> <li>・ 礼装の種類と習慣</li> <li>・ それぞれ継承したい服の製作</li> </ul>	服飾文化の目的をよく理解し、知識や技術を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書</li> <li>・ ワークシート</li> <li>・ 視聴覚教材</li> <li>・ インターネット資料</li> <li>・ 演習</li> </ul> <b>【授業態度】</b> <b>【宿題・提出物】</b> <b>【自己評価】</b>
3 学 期	4、個性とファッション <ul style="list-style-type: none"> <li>・ それぞれ継承したい服の製作</li> <li>・ 個性の表現と服飾</li> <li>・ 服飾とファッション</li> </ul>	服飾とは何か、個性の表現とは何かを考え、服の特徴を理解し、着装の基本とファッションについて理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書</li> <li>・ ワークシート</li> <li>・ 視聴覚教材</li> <li>・ インターネット資料</li> <li>・ 演習</li> </ul> <b>【授業態度】</b> <b>【宿題・提出物】</b> <b>【自己評価】</b>

科目名	ファッションデザイン	学年	3年	使用教材	【教科書】ファッションデザイン 文部科学省
		必修			【副教材】
		単位数	2単位		

学習目標

ファッションデザインの基礎、デザインの発想や表現法などについて習得した知識と技術を活用し、ファッションを創造的にデザインする資質・能力を育てる。

学習方法

- 実践的・体験的な学習活動を通して、ファッションデザインに関する分野を科学的・総合的にとらえていくことに努める。
- 実際の生活に生かせるよう、学んだことを自分自身の問題ととらえ、ファッションデザインの知識・技術をよりよくするための工夫を考え、実践する。
- 授業で活用するワークシートを上手に活用して、学習が確実に自分のものとなるよう、より深い理解をめざして取り組む。

学習評価

- 次の4つ観点に基づき、学習内容のまとまりごとに評価を行い、学年末に5段階の評定に総括する。

①関心・意欲・態度	ファッションデザインの基礎、発想と表現法などについて関心を持ち、その充実向上を目指して意欲的に取り組むとともに、ファッションを創造的にデザインするために必要な実践的な態度を身に付けようとしている。
②思考・判断	ファッションデザインの基礎、発想と表現法などについて見直し、ファッションを創造的にデザインするために思考し、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。
③技能・表現	ファッションデザインの基礎、発想と表現法や、ファッションを創造的にデザインするために必要な基礎的・基本的な技術を総合的に身に付けている。
④知識・理解	ファッションデザインの基礎、発想と表現法や、ファッションを創造的にデザインするために必要な基礎的・基本的な知識を総合的に身に付けている。

○学習の過程で自己評価を実施しますので、自らの学習状況をチェックし、目標達成に努めましょう。

**【企画 2単位】**

学 期	学習内容	学習のねらい	学習活動【評価方法】
1 学 期	<p>○オリエンテーション</p> <p>○商品企画販売実習に向けての取組 ・実行委員会の発足 ・ブランド名、ロゴの決定</p> <p>○商品企画 ・市場調査、情報分析 ・ターゲットの選定、コンセプト決定 ・商品名、デザイン決定</p> <p>○商品試作 ・商品企画中間発表 ・原価計算、価格設定</p>	<p>○商品企画の過程や商品を生産するために必要な条件について理解させる。</p> <p>○商品企画及び販売の基礎・基本が習得できるようにする。</p> <p>○ファッション産業について自ら学び、商品企画に主体的かつ協働的に取り組むことができるようにする。</p>	<p>○商品企画、生産、流通、販売の過程とそれに関わる職種と役割について考える。</p> <p>○ファッション産業の仕組みや商品企画について理解し、商品企画のための情報を収集・整理する。</p> <p><b>【学習状況観察】</b> <b>【提出物】</b> <b>【自己評価】</b> <b>【発表資料】</b></p>
2 学 期	<p>○商品製作</p> <p>○セールスプロモーション講座</p> <p>○販売・接客講座</p> <p>○店頭での販売</p> <p>○成果発表会</p>	<p>○商品の販売企画、商品構成、販売活動、商品管理などの実習を通してファッション産業について理解させる。</p> <p>○成果発表を行うことで、効果的に表現する言語能力の育成を図る。</p>	<p>○消費者の購買意欲を高める販売の効果的な方法を考える。</p> <p><b>【学習状況観察】</b> <b>【提出物】</b> <b>【商品】</b> <b>【自己評価】</b> <b>【発表資料】</b></p>
3 学 期	<p>卒業作品発表会に向けての取り組み</p> <p>○ファッションショーの企画・立案 ・構成表の作成 ・音響、照明の検討 ・フィッター、進行係の決定</p>	<p>○ファッションショーへの取り組みを通して、ファッションに関する内容を多方面から具体的に学び、課題解決を図ることができるようにする。</p>	<p>○ファッションショーを通して、課題解決に必要な基礎的・基本的な知識と技術を作品製作することから習得する。</p> <p><b>【学習状況観察】</b> <b>【自己評価】</b> <b>【作品】</b></p>

科目名	ファッション造形	学年	3年	使用教材	【教科書】ファッション造形 実教出版
		必修			【副教材】
		単位数	9単位		
<b>学習目標</b> 被服構成の基礎、構成技法、被服材料の特徴などに関する知識と技術を習得させ、被服を創造的に製作する能力と態度を育てる。					
<b>学習方法</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 実践的・体験的な学習活動を通して、家庭や地域の被服製作の歴史や文化を科学的・総合的にとらえていくように努める。</li> <li>○ 実際の生活に生かせるよう、学んだことを自分自身の問題ととらえ、被服製作の知識・技術をよりよくするための工夫を考え、実践する。</li> <li>○ 授業で活用するワークシートを上手に活用して、学習が確実に自分のものとなるよう、より深い理解をめざして取り組む。</li> </ul>					
<b>学習評価</b> ○次の4つ観点に基づき、学習内容のまとまりごとに評価を行い、学年末に5段階の評定に総括する。					
①関心・意欲・態度		被服製作について関心をもち、自分の技術の改善・向上を目指して意欲的に取り組むとともに、自主的創造的、実践的な態度を身に付けている。			
②思考・判断		被服製作について自ら思考を深め、基礎的、基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けている。			
③技能・表現		被服製作に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、実習を合理的に計画し、適切に製作を進めるとともに、作品によって自己表現できる技能を身に付ける。			
④知識・理解		被服製作に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、ファッション産業における製作者、ファッションの提案者としての役割を理解している。			
○学習の過程で自己評価を実施しますので、自らの学習状況をチェックし、目標達成に努めましょう。					

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動【評価方法】
1 学期	<p>1 被服製作オリエンテーション</p> <p>2 セミフォーマルワンピース+ジャケット</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・セミフォーマルの定義</li> <li>・ワンピース丈・ジャケットの名称、</li> <li>・デザイン画作成。</li> <li>・素材選び。</li> </ul> <p>3 セミフォーマルワンピース+ジャケットの製作</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① デザイン画作製</li> <li>② パターン作成</li> <li>③ シーチング作製と仮縫い</li> <li>④ 職業用ミシンでの縫製</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身頃     ・袖</li> <li>・衿       ・見返し</li> <li>・ファスナー</li> <li>・裾       ・仕上げ</li> <li>・試着</li> </ul>	<p>被服製作の目的をよく理解し、知識や技術を身につける。</p> <p>ジャケットの種類や歴史的変遷を理解する。</p> <p>自分の描いたデザイン画からパターンを引き、立体構成する能力を身につける。</p> <p>セミフォーマルに適する素材について学習する。</p> <p>部分縫い: 2年で学んだ学習内容を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンシールファスナー</li> <li>・パッチポケット</li> <li>・玉縁ポケット</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書</li> <li>・資料プリント</li> <li>・視聴覚教材</li> <li>・部分縫い資料 (見頃、衿、袖)</li> <li>・パターン資料</li> <li>・素材標本 (布地見本)</li> </ul> <p>【授業態度】 【宿題・提出物】 【自己評価】</p>
2 学期	<p>4 フォーマルドレスの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・素材選び</li> <li>・デザイン画作製</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>①地直し</li> <li>②パターン作成</li> <li>③裁断</li> <li>④芯はり</li> <li>⑤仮縫い(補正)</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サイズ調整</li> <li>・ボリューム調整(スカート)</li> </ul> <p>5 本縫い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身頃作り(ビスチェ型)</li> <li>・スカート部分の縫製</li> </ul>	<p>自分の描いたデザイン画からパターンを引き、立体構成する能力を身につける。</p> <p>サテンやオガゾン、シフォン等の上質資材や薄地の取り扱いについて学習する。</p> <p>ビスチェタイプのパターンメイキング。</p> <p>TPOに応じたフォーマルウェアのドレスコードを理解させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書</li> <li>・資料プリント</li> <li>・視聴覚教材</li> <li>・部分縫い資料(衿、袖)</li> <li>・パターン資料</li> </ul> <p>【授業態度】 【宿題・提出物】 【自己評価】</p>
3 学期	<p>6 付属品の制作</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボレロやショール、パニエ等の付属品の作成。</li> </ul> <p>7 着装・プレゼンテーション</p> <p>8 卒業作品発表会に向けての準備</p>	<p>自己のデザインしたドレスをいかにコーディネートして着装するかを学習する。</p> <p>ファッションショーを通して、思い描いた作品に仕上がったか確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書</li> <li>・資料プリント</li> <li>・視聴覚教材</li> <li>・部分縫い資料(衿、袖)</li> <li>・パターン資料</li> </ul> <p>【授業態度】 【宿題・提出物】 【自己評価】</p>

科目名	フードデザイン	学年	3年	使用教材	【教科書】フードデザイン 教育図書
		選択			
		単位数	2単位		

#### 学習目標

栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を習得させ、食生活を総合的にデザインするとともに食育の推進に寄与する能力と態度を育てる。

#### 学習方法

- (1) 栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

#### 学習評価

○次の4観点に基づき、評価を行い、学年末に5段階の評定に総括する。

##### 【関心・意欲・態度】

食生活に関する諸問題に関心をもち、食育の推進に向けて、積極的に取り組もうとする意欲と態度を身に付けている。

##### 【思考・判断・表現】

食生活を総合的に捉えて計画・実践するための課題を見だし、思考を深め、食育の推進に寄与するために、創意工夫し表現する能力を身に付けている。

##### 【技術】

栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する技術を身に付けている。

##### 【知識・理解】

栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関して深く理解し、基本的な知識を身に付けている。

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動【評価方法】
1 学 期	<p>○ オリエンテーション</p> <p>第1章 健康と食生活</p> <p>① 食事の意義と役割</p> <p>② 食を取り巻く現状</p> <p>第2章 栄養素・食品の特徴</p> <p>① 栄養素のはたらき</p> <p>② 健康に必要な栄養素</p> <p>④ 食品の特徴</p>	<p>○ 学習目標を理解する。</p> <p>○ 食べることの意義を理解し、食事と団らんの重要性を知る。</p> <p>○ 私たちの栄養の摂取状況について知る</p> <p>○ 食の外部化や食料自給率の低下などの諸問題について正しい知識を身につけ、自分なりの考えを確立する。</p> <p>○ 食物摂取の必要性や、健康を維持するために必要な栄養摂取量、ライフステージごとの栄養摂取の特徴を理解する。</p> <p>○ 食品に含まれる栄養成分が、体内で消化・吸収される課程を理解する。</p> <p>○ 各栄養素の種類と栄養的な意義、それらの栄養素を含む食品について知り、各栄養素の代謝経路と役割を理解する。</p>	<p>○ 教科書、ワークシート、実習を通して、栄養・食品について理解し、課題に主体的に取り組むことができる。</p> <p>【学習状況観察】</p> <p>【ワークシート】</p> <p>【定期考査】</p> <p>【自己評価】</p>

	<p>⑤食品加工の目的 ⑥食品の選択と取り扱い</p>	<p>○各栄養素の必要性を理解し、バランスよく摂取する重要性を理解する。 ○さまざまな食品について、特徴とその調理制、加工について理解する。 ○健康食品やインスタント食品などの食品について正しい知識を身につける。 ○身の回りにある加工食品を知り、加工の方法や目的を理解する。</p>	
2 学 期	<p>第3章 調理と献立 ①調理の基本 ②ライフステージと食事計画 ③献立作成 ④洋式目角献立と調理・食卓作法 ⑤食文化を見つめる ⑥テーブルコーディネート</p> <p>第4章 調理実習 日常食・和風献立の調理</p>	<p>○調理は食品を食事の目的に合うように作りかえることであることを理解する。 ○調理器具や調理の方法を知ること、実際の調理をする前の下地作りをする。 ○年齢や性別、運動量などによって、必要とされる栄養素の違いがあることを知り、ライフステージごとの特徴を理解する。 ○献立を作成するための留意点を理解し、のぞましい献立作成ができる能力を身につける。 ○各様式別料理の特徴を理解する。 ○各様式の献立構成、食卓構成、作法を理解する。 ○各様式に適した献立作成や供応に伴うマナーを身につける。 ○食は生活と密着したものであり、地域やライフスタイルに合わせて多様な文化を作り上げてきたことを知る ○テーブルコーディネートの基本をふまえ、食事のテーマにふさわしい食卓の整え方や環境作りの技術を身につける。</p>	<p>○教科書、ワークシート、実習を通して、調理と献立について理解し、課題に主体的に取り組むことができる。 【学習状況観察】 【ワークシート】 【定期考査】 【自己評価】</p>
3 学 期	<p>第4章 調理実習 日常食・洋風献立の調理 中国料理献立の調理 カフェメニュー 行事食 様式別献立 エコクッキング</p> <p>第5章 豊かな食生活をつくる ①国民運動としての食育の推進</p>	<p>○日本料理、西洋料理、および中国料理の基本的な献立作成ができるようにする。 ○作成した献立に適した食品を選択し、食品の調理性をふまえた適切な調理ができるようにする。 ○食品衛生と安全に十分配慮して、食品を適切に扱うことができるようにする。 ○主な調理操作を習得することにより、能率良くおいしく作るができるようにする。 ○各料理に合った盛り付けや、目的に合った食卓を整えることができる ○現代の食生活を見直すために、食育の大切さを理解する。 ○地域ごとの食育の取り組みについて学ぶ</p>	<p>○教科書、ワークシート、実習を通して、日常食の調理について理解し、課題に主体的に取り組むことができる。 【学習状況観察】 【ワークシート】 【自己評価】</p>



科目名	販売ビジネス	学年	3年	使用教材	【教科書】ファッション販売
		必修・選必・ <span style="border: 1px solid black;">コース選</span>			【副教材】ファッション販売問題集
		単位数	3単位		

#### 学習目標

ファッション販売の世界で活躍する際に必要な基本的な知識から、ファッション産業の企画、生産、流通の各分野で働く際に必要とする知識や技術を習得する。

#### 学習方法

- 実践的な学習活動を通して、ファッション販売・ビジネスに関する分野を科学的・総合的にとらえていくことに努める。【思考力・判断力・人間性等】
- 実際の生活に生かせるよう、学んだことを自分自身の問題ととらえ、ファッション販売・ビジネスの知識・技術をより高める。【知識及び技術】
- 授業で活用する問題集や資料等を活用して、学習内容を確実に自分のものとし、深い理解をめざして取り組み、より高い段階（級）の資格取得を目指す。【学びに向かう力・人間性】

#### 学習評価

○次の4つ観点に基づき、学習内容のまとめりごとに評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。

①関心・意欲・態度	ファッション販売・ビジネスの領域に感心をもち、将来ファッション関係の仕事に就くことを想定することで、学習に意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身につける。
②思考・判断	ファッション業界における日常的なマナー及び態度について主体的に思考し、ファッション感度の高い生活者（客）のニーズに適切に対応・判断し、創造・工夫する能力を身につける。
③技能・表現	自分らしいライフスタイルを持ち、ますます個性化する生活者（客）に適切に対応するための基本的な技術・技能・表現力を総合的に身につける。
④知識・理解	生活者（客）の満足を得ながら販売するための、ファッション販売・ビジネスに関する専門的な知識を持ち、さらに理解を深めていく態度を育てる。

○学習の過程で自己評価を実施しますので、自らの学習状況をチェックし、目標達成に努めましょう。

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動【評価方法】
1 学期	<p>&lt;ファッション販売能力検定（3級）&gt;</p> <p>○A科目 [I]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファッション販売知識</li> <li>・ファッション・マーケティング知識</li> <li>・ファッション販売業務</li> </ul> <p>○B科目 [I]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファッション販売技術</li> <li>・店舗演出・VP展開</li> <li>・ファッション商品知識</li> </ul>	<p>○ファッション販売能力検定の主旨を理解し、資格取得に取り組む。</p>	<p>○テキスト（ファッション販売3）を読み通しながら、問題集（ファッション販売能力検定試験問題集／3級）を解き、内容を確認し理解する。</p> <p>（学習状況観察） （検定取り組み状況） （定期考査）</p>
2 学期	<p>&lt;ファッション販売能力検定（2級）&gt;</p> <p>○A科目 [II]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファッション販売知識</li> <li>・ファッション・マーケティング知識</li> <li>・ファッション販売業務</li> </ul> <p>○B科目 [II]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファッション販売技術 1、2</li> <li>・店舗演出・VP展開</li> <li>・ファッション商品知識</li> </ul>	<p>○ファッション販売能力検定の主旨を理解し、資格取得に取り組む。</p>	<p>○テキスト（ファッション販売2）を読み通しながら、問題集（ファッション販売能力検定試験問題集／2級）を解き、内容を確認し理解する。</p> <p>（学習状況観察） （検定取り組み状況） （定期考査）</p>
3 学期	<p>&lt;デザインの目的と発想&gt;</p> <p>○デザインの目的と意義</p> <p>○デザインの目的と問題点</p> <p>○ファッションデザインの条件</p> <p>○目的と条件を満たしたファッションデザイン</p>	<p>○何のためにデザインするのかを明確にする。</p> <p>○生活環境を取り巻く環境と衣服について問題意識をもつ。</p> <p>○快適性・自己表現・強調と連帯感・衣服の管理と耐久性等を知る。</p> <p>○目的に合った衣服をイメージ・デザインし、提案する。</p>	<p>○デザインを総合的に捉える。</p> <p>○今ある衣服のあり方をもう一度見直して調べてみる。</p> <p>○繊維素材や衛生的機能、衣服構成などの基礎知識を振り返り、ファッションデザインのために必要な条件を考える。</p> <p>（学習状況観察） （自己評価）</p>

科目名	大量縫製実習	学年	3年	使用教材	【教科書】
		選必			【副教材】
		単位数	3単位		
<b>学習目標</b> アパレル製品の企画・設計、工業生産（縫製・プレス）、出荷に至る各工程では、デザイナー、マーチャンダイザー、縫製担当者、生産管理者、品質管理者など多くの専門技術者・技能者が携わっており、それぞれの業務の基礎知識と技術、もの作りに対する考え方が理解できる人材育成を目指し、社会へ出て自分を取り巻く関係者と円滑に意思疎通が図れることができることを目標とする。					
<b>学習方法</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 既製服の生産の流れを理解し、生産工程を計画し、分析しながら計画書を作成する。</li> <li>○ 商品製作おこない、効率性を追求し、検品、梱包まで行う。</li> <li>○ 商品販売についても学習し販売マナーや接客方法等も習得する。</li> </ul>					
<b>学習評価</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 次の4つ観点に基づき、学習内容のまとめりに評価を行い、学年末に5段階の評定に総括する。</li> </ul>					
①関心・意欲・態度		商品開発の基礎、発想と表現法などについて関心を持ち、その充実向上を目指して意欲的に取り組むとともに、ファッションを創造的にデザインするために必要な実践的な態度を身に付けようとしている。			
②思考・判断		商品開発の基礎、発想と表現法などについて見直し、商品開発を創造的にデザインするために思考し、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。			
③技能・表現		商品開発の基礎、発想と表現法や、商品開発を創造的にデザインするために必要な基礎的・基本的な技術を総合的に身に付けている。			
④知識・理解		アパレル製品の企画・設計、工業生産（縫製・プレス）、出荷に至る各工程に必要な基礎的・基本的な知識を総合的に身に付けている。			
○学習の過程で自己評価を実施しますので、自らの学習状況をチェックし、目標達成に努めましょう。					

## 【大量縫製実習 3 単位】

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動【評価方法】
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>○オリエンテーション</li> <li>○工業用ミシンの扱い方</li> <li>○作業効率について</li> <li>○商品企画販売実習に向けての取組</li> <li>○商品企画               <ul style="list-style-type: none"> <li>・市場調査、情報分析</li> <li>・ターゲットの選定、コンセプト決定</li> <li>・商品名、デザイン決定</li> </ul> </li> <li>○商品試作               <ul style="list-style-type: none"> <li>・商品企画中間発表</li> <li>・原価計算、価格設定</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○商品企画の過程や商品を生産するために必要な条件について理解させる。</li> <li>○ノベルティグッズと販売促進物との違い</li> <li>○商品企画及び効率的な作業を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○作業効率についての仕分け作業について</li> <li>○安全で、効率よく作業をおこなえるか。</li> <li><b>【学習状況観察】</b></li> <li><b>【提出物】</b></li> <li><b>【自己評価】</b></li> <li><b>【発表資料】</b></li> </ul>
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>○商品製作</li> <li>○かりゆし製作</li> <li>○テキスタイルデザイン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○商品の販売企画、商品構成、効率的作業をおこなう。</li> <li>○注文服（オートクチュール）と既製服（プレタポルテ）の違いについて理解させる。</li> <li>○工業生産的もの作りの道理、実務工程の知識を習得させる。</li> <li>○作業関係者と円滑に意思疎通が図ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○消費者の購買意欲を高める販売の効果的な方法を考える。</li> <li><b>【学習状況観察】</b></li> <li><b>【提出物】</b></li> <li><b>【商品】</b></li> <li><b>【自己評価】</b></li> <li><b>【発表資料】</b></li> </ul>
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>○かりゆし製作</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○技術者を養成するため、アパレル業・縫製加工業の役割、繊維製品の品質に関わることがらを習得する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>【学習状況観察】</b></li> <li><b>【自己評価】</b></li> <li><b>【作品】</b></li> </ul>

科目名	課題研究	学年	3年	使用教材	【教科書】
		必修			【副教材】
		単位数	4単位		
<b>学習目標</b> 被服製作・ファッションデザインに関する課題を設定し、その課題を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。					
<b>学習方法</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 実践的・体験的な学習活動を通して、自ら課題を設定し、その課題を科学的・総合的にとらえて解決していくことに努める。</li> <li>○ 実際の生活に生かせるよう、学んだことを自分自身の問題ととらえ、被服製作、ファッションデザインの知識・技術をよりよくするための工夫を考え、実践する。</li> <li>○ 学習が確実に自分のものとなるよう、より深い理解をめざして取り組む。</li> </ul>					
<b>学習評価</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 次の4つ観点に基づき、学習内容のまとめりごとに評価を行い、学年末に5段階の評定に総括する。</li> </ul>					
①関心・意欲・態度		被服製作、ファッションデザインの基礎、発想と表現法などについて関心を持ち、その充実向上を目指して意欲的に取り組むとともに、ファッションに関する課題を解決するために必要な実践的な態度を身に付けようとしている。			
②思考・判断		被服製作、ファッションデザインの基礎、発想と表現法などについて見直し、ファッションに関する課題を解決するために思考し、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。			
③技能・表現		被服製作、ファッションデザインの基礎、発想と表現法や、ファッションに関する課題を解決するために必要な基礎的・基本的な技術を総合的に身に付けている。			
④知識・理解		被服製作、ファッションデザインの基礎、発想と表現法や、ファッションに関する課題を解決するために必要な基礎的・基本的な知識を総合的に身に付けている。			
○学習の過程で自己評価を実施しますので、自らの学習状況をチェックし、目標達成に努めましょう。					

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動【評価方法】
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ オリエンテーション</li> <li>○ 衣生活分野に関する調査・研究</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 課題研究において課題解決を図るために、学習の意義や内容、学習方法や評価の方法について理解させる。</li> <li>○ 専門的な知識・技術の深化・総合化を図り、衣生活分野に関する課題の発見・解決に取り組むことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 実習等を通して、課題解決に必要な基礎的・基本的な知識と技術を習得する。</li> <li>【学習状況観察】</li> <li>【検定結果】</li> <li>【自己評価】</li> <li>○ 情報通信ネットワークやデザインブック、資料等を活用する。</li> </ul>
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 衣生活分野に関する調査・研究・作品製作</li> <li>○ 中間発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 調査・研究した内容をもとに創意工夫した作品を製作することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 計画・実践・評価・改善の過程を記録し、見通しを立てて作品を製作する。</li> <li>【学習状況観察】</li> <li>【自己評価】</li> <li>【作品】</li> </ul>
3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 課題研究のまとめと発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 研究成果の発表を行うことで、情報を的確に理解し効果的に表現する言語能力の育成を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 調査・研究した内容を適切に発表する。</li> <li>【学習状況観察】</li> <li>【作品】</li> <li>【自己評価】</li> <li>【発表資料】</li> </ul>

科目名	きもの着付け	学年	3年	使用教材	【教科書】
		必修 <b>選必</b>			【副教材】きもの教本
		単位数	3単位		

#### 学習目標

日本の伝統衣装の和服について知識理解を深めるとともに、和服の着装について体験的に技術を身に付けさせる。

#### 学習方法

- 着物を1人で手早く楽に着くずれなく鏡を見ずに着付けができるように、実践的・体験的な学習活動を通して着付けを習得していきましょう。
- 実際の生活に生かせるよう、学んだことを自分自身の問題ととらえ、社会生活におけるマナー及び日本の伝統衣装の和服に関する知識・技術をよりよくするための工夫を考え、実践しましょう。
- 授業で活用するワークシートを上手に活用して、学習が確実に自分のものとなるよう、より深い理解をめざして取り組みましょう。

#### 学習評価

○次の4つ観点に基づき、学習内容のまとめりごとに評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。

①関心・意欲・態度	社会生活におけるマナー及び日本の伝統衣装の和服について感心を持ち、さらに和服の着装に関して意欲的に取り組むとともに、実践的な態度をみにつけようとしている。
②思考・判断	社会生活におけるマナー及び日本の伝統衣装の和服について主体的に思考し、和服の着装に関して適切に判断し、工夫・創造する能力を身につけている。
③技能・表現	社会生活におけるマナー及び日本の伝統衣装の和服、さらに和服の着装に関する基礎的・基本的な技術を総合的に身につけている。
④知識・理解	社会生活におけるマナー及び日本の伝統衣装の和服、さらに和服の着装をするのに必要な知識を総合的に身につけている。

○学習の過程で自己評価を実施しますので、自らの学習状況をチェックし、目標達成に努めましょう。

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動【評価方法】
1 学期	1. オリエンテーション 2. 着付けの基本 ○お辞儀の仕方 ○基本になる着付け 3. 若い人の着付けと補正の必要性 4. 普段着の着付け ○下着の着方、着物の着方 ○名古屋帯の結び方 5. 着物と帯 ○着物と帯の調和 ○小物の合わせ方 6. 浴衣の着付け ○浴衣の着付けと半幅帯の結び方 ○半幅帯の変わり結び	○着付けに必要な小物の名称や使用目的、着物の部分名称について理解し、実践的に普段着の着付けができる知識や技術を身につける。	○きもの教本、資料、実物見本を活用し、普段着の着付けについて実習を通して学習する。 (学習状況観察) (期末考査) (実技試験)
2 学期	7. 外出着の着付け ○訪問着の着方 ○袋帯の結び方 8. 振袖の着付け ○振袖に合った帯結び 9. 留袖の着付け 10. 着物の知識とマナー ○着物のTPO ○立ち振る舞い 11. 冠婚葬祭のマナー	○普段着と浴衣の着付けに必要な小物の違いを理解し、浴衣の着付けに必要な知識と技術を身につける。 ○外出着や振袖、留袖など、それぞれに応じた着物や帯、帯結びについて理解を深め、身についた知識や技術を生かしてそれぞれに応じた着付けが実践できる。	○きもの教本、資料、実物見本を活用し、普段着の着付けについて実習を通して学習する。 (学習状況観察) (中間考査・期末考査) (実技試験)
3 学期	12. 着物の歴史 ○和服の変遷 古代着付けと近代着付けの違い 13. 初級講師認定試験に向けての取り組み (実技・筆記)	○和服の変遷及び、古代着付けと近代着付けの違いについて理解を深め、小物を使いこなして着付けをすることが出来る。 ○初級講師認定試験の資格取得に向けて取り組むことができる。	○きもの教本、資料、実物見本を活用し、実習を通して学習する。 (学習状況観察) (期末考査) (実技試験)



科目名	生活教養	学年	3年	使用教材	【教科書】秘書検定集中講義
		学校設定科目			【副教材】
		単位数	2単位		
<b>学習目標</b> 社会人として必要な一般常識やビジネスマナーを身に付けさせる。また、社会で働く上で必要とされる、組織の一員として効率的に仕事する能力や、様々な場面で適切な対応ができる能力を育成する。仕事上の「判断力」や「対応力」を培い、社会で良好な人間関係を築ける人材の育成を目指す。					
<b>学習方法</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 実践的・体験的な学習活動を通して、に関する分野を一般常識やビジネスマナーに関する分野を科学的・総合的にとらえていくことに努める。</li> <li>○ 実際の生活に生かせるよう、学んだことを自分自身の問題ととらえ、一般常識やビジネスマナーの知識・技術をよりよくするための工夫を考え、実践する。</li> <li>○ 授業で活用するワークシートを上手に活用して、学習が確実に自分のものとなるよう、より深い理解をめざして取り組む。</li> </ul>					
<b>学習評価</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 次の4つ観点に基づき、学習内容のまとまりごとに評価を行い、学年末に5段階の評定に総括する。</li> </ul>					
①関心・意欲・態度		一般常識やビジネスマナーの基礎及び実践などについて関心をもち、その充実向上を目指して意欲的に取り組むとともに、社会で活動する組織の一員として効率的に仕事を行う実践的な態度身に付けようとしている。			
②思考・判断		一般常識やビジネスマナーの基礎及び実践について様々な場面で適切に判断し、対応できる能力を身に付けている。			
③技能・表現		一般常識やビジネスマナーの基礎及び実践するために必要な基礎的・基本的な技術及び表現を総合的に身に付けている。			
④知識・理解		一般常識やビジネスマナーの基礎及び実践するために必要な基礎的・基本的な知識を総合的に身に付けている。			
○学習の過程で自己評価を実施しますので、自らの学習状況をチェックし、目標達成に努めましょう。					

**【生活教養 2単位】**

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動【評価方法】
1 学期	<p>○オリエンテーション</p> <p>1 必要とされる資質</p> <p>(1) 秘書の心構え</p> <p>(2) 秘書に求められる能力と守秘義務</p> <p>2 職務知識</p> <p>(1) 秘書の機能と役割</p> <p>(2) 秘書の職務</p> <p>3 一般知識</p> <p>(1) 企業の基礎知識</p> <p>(2) 企業組織の活動</p> <p>(3) 社会常識</p>	<p>○ビジネスマナーの基礎・基本が習得できるようにする。</p> <p>○ビジネスマナーについて自ら学び、その技能を主体的かつ協働的に取り組むことができるようにする。</p> <p>○確実な知識習得の確認として「秘書検定3級」の取得に挑戦する。</p>	<p>【学習状況観察】</p> <p>【提出物】</p> <p>【自己評価】</p> <p>【定期考査】</p>
2 学期	<p>4 マナー・接遇</p> <p>(1) 人間関係と話し方・聞き方</p> <p>(2) 話し方と聞き方の応用</p> <p>(3) 敬語と接遇用語</p> <p>(4) 電話応対</p> <p>(5) 来客応対</p> <p>(6) 交際業務</p> <p>5 技能</p> <p>(1) 会議における秘書の役割</p> <p>(2) ビジネス文書の作成</p> <p>(3) 文書の取り扱い</p> <p>(4) 文書・資料管理</p> <p>(5) 日程管理</p> <p>(6) 環境整備</p>	<p>○ビジネスマナー及び一般常識における実践的な対応を身に付ける。</p> <p>○成果発表を行うことで、効果的に表現する言語能力及びICT活用の育成を図る。</p>	<p>【学習状況観察】</p> <p>【提出物】</p> <p>【自己評価】</p> <p>【定期考査】</p> <p>【PC操作】</p>
3 学期	<p>まとめ</p> <p>取り組み状況の報告会</p>	<p>○成果発表を行うことで、効果的に表現する言語能力の育成を図る。</p>	<p>【学習状況観察】</p> <p>【自己評価】</p> <p>【まとめ資料の作成】</p>

科目名	消費生活	学年	3年	使用教材	【教科書】高等学校用消費生活
		必修			【副教材】
		単位数	2単位		

#### 学習目標

家庭の生活に関わる産業の味方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、消費者の視点に基づく豊かな消費生活の実現を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

#### 学習方法

- 経済社会の動向、消費者の権利と責任、消費者と行政や企業との関わり及び連携の在り方などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- 消費生活に関する課題を発見し、消費者の視点をもった職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- よりよい消費生活の実現を目指して自ら学び、消費者の支援や持続可能な社会の形成に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

#### 学習評価

○次の4つ観点に基づき、学習内容のまとめりにあわせて評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。

①関心・意欲・態度	よりよい消費生活の実現を目指して自ら学び、消費者の支援や持続可能な社会の形成に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
②思考・判断	消費生活に関する課題を発見し、消費者の視点をもった職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。
③技能・表現	経済社会の動向、消費者の権利と責任、消費者と行政や企業との関わり及び連携の在り方などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付け、社会生活において活用する力を身に付けている。
④知識・理解	経済社会の動向、消費者の権利と責任、消費者と行政や企業との関わり及び連携の在り方などについて体系的・系統的に理解する力を身に付けている。

○学習の過程で自己評価を実施しますので、自らの学習状況をチェックし、目標達成に努めましょう。

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動【評価方法】
1 学 期	(1) 経済社会の動向と消費生活 ア 国民経済と消費者 イ 社会の変化と消費生活 ウ 多様化する流通・販売方法と消費者 エ 決済手段の多様化と消費者信用 オ 生活における経済の計画と管理	○消費生活が複雑化・多様化し,消費者問題が深刻化していることを理解させる。 ○家族の生涯の経済設計や家計の収支、金融、社会保障について理解させる。	・ I C T 機器活用 ・ 協働活動 (学習状況観察) (ワークシート) (毎時の課題) (定期考査)
2 学 期	(2) 消費者の権利と責任 ア 消費者問題 イ 消費者の権利と関係法規 ウ 消費生活と契約 エ 消費者教育  (3) 消費者と行政、企業 ア 消費者の自立支援と行政 イ 消費者と企業  (4) 持続可能な社会の形成と消費行動 ア 商品・サービス研究 イ 持続可能な社会の形成と消費行動	○消費者問題と関連する制度の時系列的な経緯を知り、消費者被害の救済、制度の新設や変更について理解させる。 ○消費者行政及び消費者に関する基本的な法規について学習させる。 ○企業の消費者志向経営や社会的責任について理解させる。 ○地球環境問題や国際的な動向も視野に入れ、持続可能な消費生活について具体的な事例について調査し課題を発見させる。 ○実生活の中で具体的な事例について調査し、その課題解決について主体的に考察させる。	・ I C T 機器活用 ・ 協働活動 (学習状況観察) (ワークシート) (毎時の課題) (定期考査)
3 学 期	(5) 消費生活演習 ア 商品・サービス研究 イ 消費者支援研究	個人またはグループで課題を設定、研究、 I C T 機器を活用し発表させる。	・ I C T 機器活用 ・ 協働活動  (学習状況観察) (自己評価) (P P 作成)

科目名	服飾手芸	学年	3年	使用教材	【教科書】
		必修・ <b>選必</b> コース選・デザインコース必			【副教材】
		単位数	3単位		
学習目標					
<p>手芸や染め織りに関する知識と技術を習得させ、手芸や染め織り作品を創造的にデザインし、服飾に活用する能力と態度を育てる。</p>					
学習方法					
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 手芸や染め織りの製作について、計画を立て作品の製作ができるようにし、その際、用具や器具、薬品、染料などの取り扱いについては、安全に十分留意する。</li> <li>○ 手芸や染め織りに関する種類や変遷、地域の伝統文化や歴史などとも関わらせて扱い、体系的・系統的に理解するとともに関連する技術を身に付けるようにする。</li> <li>○ 授業で活用するワークシートを上手に活用して、学習が確実に自分のものとなるよう、より深い理解をめざして取り組む。</li> </ul>					
学習評価					
○ 次の4つ観点に基づき、学習内容のまとめりごとに評価を行い、学年末に5段階の評定に総括する。					
①関心・意欲・態度	服飾材料としての手芸及び染め織りの技法及びそれらを用いた作品の製作などに関心を持ち、その充実向上を目指して意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けようとしている。				
②思考・判断	服飾材料としての手芸や染め織りに関する種類や方法、それらを用いた作品製作方法などについて主体的に思考し、作品が完成するように適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。				
③技能・表現	服飾材料としての手芸や染め織りの基礎的な発想や表現法、それらを用いた製作に関する基礎的・基本的な技術を総合的に身に付けている。				
④知識・理解	服飾材料としての手芸や染め織りの技法およびそれらを用いた製作などをするために必要な知識を総合的に身に付けている。				
○学習の過程で自己評価を実施しますので、自らの学習状況をチェックし、目標達成に努めましょう。					

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動【評価方法】
1 学 期	<p>授業のオリエンテーション</p> <p>&lt;手芸&gt;</p> <p>○しわ加工の基本的な技法及びそれを用いた作品製作</p> <p>○ギャザーワーク</p> <p>○スモッキング</p> <p>&lt;染め物&gt;</p> <p>○校内にある天然（植物）染料を知る。</p> <p>○天然染料を使い草木染めをする。</p> <p>○数種の媒染液に木綿と絹を染める。</p> <p>○絞り染めをする。</p> <p>&lt;織り物&gt;</p> <p>○機織り機を使った織りをする。</p> <p>・巻取り→綜洗通し→箆通し→製織</p>	<p>○服飾手芸の目的をよく理解し、製作した作品に応用できる知識や技術を身につける。</p> <p>○身近にある植物が天然素材となる事を知る。</p> <p>○草木染めの方法と媒染の効果を知る。</p> <p>○絞り染めの方法を知る。</p> <p>○機織りの方法を学ぶ。</p>	<p>○プリント、ワークシート、段階標本、実物見本などを活用し、しわ加工・ギャザーワーク・スモッキングの製作方法について学習し作品製作を行う。</p> <p>○植物を採取する。</p> <p>○草木染めをし、媒染液を作って色の変化を調べて標本を作る。</p> <p>○織り柄のデザインを決めて織り上げる。</p> <p>【学習状況観察】 【定期考査】【提出物】 【自己評価】</p>
2 学 期	<p>&lt;手芸&gt;</p> <p>○帽子・コサージュ</p> <p>○バッグ・ネクタイ</p> <p>&lt;織り物&gt;</p> <p>○機織り機を使った織りをする。</p> <p>・巻取り→綜洗通し→箆通し→製織</p> <p>&lt;染め物&gt;</p> <p>○天然染料を使い草木染めをする。</p> <p>○数種の媒染液に木綿と絹を染める。</p> <p>○絞り染めをする。</p> <p>&lt;染め物・織り物コース&gt;</p> <p>○染め・織りどちらも生地在完成後、自分がデザインした服のパターン作り、縫製を行う</p> <p>○卒業発表会に向けた作品を製作する。</p>	<p>○作品の応じた材料を選択することができる</p> <p>○機織りの方法を学ぶ。</p> <p>○草木染めの技法と媒染の効果を知る。</p> <p>○絞り染めの技法を知る。</p> <p>○染め、織りを作品に効果的に活かす。</p>	<p>○実物見本などを活用し帽子・コサージュ・バック・ネクタイの製作方法について学習し作品製作を行う</p> <p>○織り柄のデザインを決めて織り上げる。</p> <p>○草木染めをし、媒染液を作って色の変化を調べて標本を作る。</p> <p>○染め・織りを取り入れた作品を仕上げて、ファッションショーに出品する。</p> <p>【学習状況観察】 【定期考査】【提出物】 【自己評価】</p>

<p>3 学 期</p>	<p>&lt;手芸&gt; ○フェルトを用いた作品</p> <p>&lt;染め物・織り物コース&gt; ○筒引きによる染色をする。 ・糊作り→デザイン→乾燥→染色→媒染 ○自由作品を製作する。</p> <p>○作品発表会（1年間のまとめ）</p>	<p>○作品及び材料にあったデザインを考える</p> <p>○筒引きの技法を知る。</p> <p>○筒引きで染色した布地を作品に活かす。</p> <p>○自他の作品の違いを知り、互いに認め合う。</p>	<p>○フェルトを用いた作品の製作方法について学習し、作品製作を行う。</p> <p>○糊の作り方や防染の方法を学ぶ。</p> <p>○小物類や簡単な被服を製作して仕上げる。</p> <p>○作品を発表し、互いで評価し合う。</p> <p><b>【学習状況観察】</b> <b>【定期考査】</b> <b>【提出物】</b> <b>【自己評価】</b></p>
----------------------	---	---	--